

かつて「自明」とされていたことがらが、いま、改めてみつめ直され、問い返されている。子どもをめぐるあれこれも、例外ではない。たとえば「母性愛」、あるいは「子どもの可愛らしさ」、さらには「子どもの無邪気さ、無垢さ、純真さ」などなど……。私どもは、いつの間にか、これらを当然と思い定め、疑うことすら忘れて、というより、むしろ、それらを前提とし、出発点とすら思いなして、子どもの問題を考えてきたのではなかったろうか。子どもの出現を障害視する母親や、可愛らしくも無邪気でもない子どもを前にして、私どもが戸惑い、憤慨し、何かの間違っているかと抗議したくなったりするのが、その何よりの証であろう。「母親が変わった、子どもも変わった」と、歎息し、絶望するのも、その現われに他なるまい。

「子どもとは、ある時代に誕生した歴史的産物に他ならず、家族が情緒的な機能

能をになわされて、人の成長の情緒的磁場として位置づけられるようになったのは、近代以降の出来事にすぎない。」

フランスの歴史学者、フィリップ・アリエスの提出したこのテーゼが、意味深いのは、先に述べた「母子にかかわる自明性」を問い直すための、明確な根拠を示してくれたことにある。私どもは、母子の結び付きや、家族の情緒的機能を、余りにも「自明」と思い込みすぎて、いつか、それが、あるべき唯一の姿と思ひこみすぎてはいなかったろうか。

いま、その地殻が、明瞭な地鳴りとともに亀裂を見せ始めているとすれば、それは、恐らく、来るべき時代への一つの先触れであるに相違ない。徒らに、既成の形に執着するのではなく、動きつつあるものを直視すること、いま、私どもに必要なのは、その「まなざし」ではないだろうか。

(H)

幼児の教育 第八十四巻 第六号

六月号 ①

定価三五〇円

昭和六十年五月二十五日 印刷

昭和六十年六月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 発行人 本田和子

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします